

令和7年度厚生労働科学研究費補助金
(障害者政策総合研究事業)

強度行動障害を有する知的障害・発達障害に関わる医療従事者向け
研修プログラム開発に向けた研究 (24GC1007)
分担研究報告書

「地域支援体制づくりと地域ケア会議の持ち方」講義資料及び講義ビデオの修正

分担研究者：吉川徹 (愛知県西三河福祉相談センター)

研究要旨

令和6年度に「地域支援体制づくりと地域ケア会議の持ち方」の講義資料及び講義ビデオ、ワークショップ用プログラムを作成した。今年度はこれらを用いて、動画視聴・オンライン・実地の3段階から成る研修を試行し、その結果に基づいて研修プログラムの修正・追加を行った。

A. 研究目的

強度行動障害を有する知的障害・発達障害者の診療に際しては、医療機関のみで行うことの可能な介入には限界があり、地域の多職種の支援者との連携が不可欠である。

そのために、地域での連携を可能とする体制づくりへの医療従事者としての貢献、および主催者もしくは参加者としての地域ケア会議への関与のために必要な姿勢、知識、技術について学習する機会を提供することを研究の目的とした。

こうした領域では際しては、座学のための研修による知識や技術の向上には限界があると考えられることから、ワークショップ形式での研修を開発し、研修内容の定着を図ることとした。

B. 研究方法

令和6年度に作成した講義、ワークを用いて、動画視聴・オンライン・実地の3段階から成る研修を試行する。その試行結果に基づき、本研究班会議において講義、ワークの内容を検討し、修正を加えた。

(倫理面への配慮)

本研究では公表されている既存の資料を用いた構成としており、個人情報を取り上げていない。

C. 研究結果

講義資料作成に当たっては、最終的な目標をして、強度行動障害の状態にある児者の診療に関わる医療従事者が地域での支援体制づくりに積極的に関与する姿勢とそのための基礎的な知識を獲得すること、および個別の事例についての地域ケア会議を主催もしくは参加する際に必要な知識を獲得することとした。

講義資料の作成に当たっては先行する研究を参照するとともに、近年の強度行動障児者の支援に関する施策の動向などに関する公的情報を検索・収集した。

ワークについては、最終的な目標を個別の事例への支援に際して、有意義な地域ケア会議が開催でき、医療従事者としてそれに貢献するための技術を獲得することを目的とし、資料を作成した。

今年度行った試行から、強度行動障害事例の診療

の経験の少ない受講者や地域ケア会議参加の経験のない受講者にとっては、地域ケア会議の目的、構成、実際の開催方法などに関して、目標の認識や具体的な知識が不足していると考えられたことから、追加の小講義を作成し、地域ケア会議への参加の候補者となりうる人や機関についての提案と、より実効性の高い地域ケア会議とするために、目標とすべき連携の形についての説明を行うこととした。

D. 考察

現状で、強度行動障害の診療経験は比較的特定の医療機関に偏りやすく、地域のニーズに応えきれない状況になっており、研修プログラムの開発、施行を通じて、広く医療従事者の診療スキルの底上げを図ることが必要である。強度行動障害の診療経験の少ない受講者を想定した、実践に繋がりやすい研修プログラムの開発が必要である。

E. 結論

令和6年度に開発したプログラムに関し、研究班での検討、研修の試行から得られた知見のフィードバックに基づき、変更を加えた。これにより更に地域での実践に繋がりやすい研修プログラムとなったと考えられる。今後も随時の改訂作業を継続する必要があると考えられた。

【文献】

- 1) 厚生労働省(2023) 強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会報告書
- 2) 會田千重(2023) 入院中の強度行動障害者への支援・介入の専門プログラムの整備と地域移行に資する研究 厚生労働科学研究報告書
- 3) 厚生労働省(2023) 障害者総合福祉推進事業 強度行動障害を有する者の一般医療受診に関する実態調査 「強度行動障害といわれる状態にある当事者の歯科を含む一般身体医療受診に関する調査」

4) 日詰正文 吉川 徹 樋端佑樹(編)(2022) 対話から始める 脱!強度行動障害 日本評論社

5) 金樹英(2015) 平成27年度 強度行動障害支援者養成研修(基礎研修) 講師用資料 「強度行動障害と医療」

6) 特定非営利活動法人全国地域生活支援ネットワーク(監修)(2020) 強度行動障害のある人の「暮らし」を支える: 強度行動障害支援者養成研修[基礎研修・実践研修]テキスト 中央法規出版

G. 研究発表

1. 論文発表

吉川徹 医療機関における取り組み-公立病院での短期レスパイト入院を中心に- 特集 今こそ知ろう、強度行動障害 (II): 強度行動障害への実際の取り組み 児童青年精神医学とその近接領域 66(2): 63-69 2026年2月

2. 学会発表

吉川徹 成人期を見据えた児童期からの治療 第121回日本精神神経学会 シンポジウム ライフステージを通じた強度行動障害の地域支援体制の発展を目指して 2025年6月19日 神戸国際会議場

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし